

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地									
日本工学院専門学校		昭和51年7月1日		前野 一夫		〒144-8655 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-3732-1111									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地									
学校法人片柳学園		昭和25年3月1日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-6424-1111									
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士										
文化・教養	芸術専門課程	声優・演劇科		平成29年文部科学省 告示第30号	—										
学科の目的	声優・俳優如何にかかわらず息の長い役者として活躍できる人材育成と社会人としての恥ずかしくない立ち振る舞いの出来る人材育成を目的としている。														
認定年月日	令和2年4月20日														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技								
2年	昼間	1700時間	290時間	0時間	3980時間	0時間	0時間								
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数									
240人		283人	16人	6人	42人	48人									
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。										
長期休み	■学年始: 4月1日～ ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月8日 ■学年末: 3月17日～3月31日			卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年度の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学内における担任との個人面談を基本とし、困難な場合は電話やEメール等でも相談対応や指導をしている。また状況に応じて保護者との共有や連携をとった指導を行っている。			課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展覧会、ボランティア活動、体育祭、学園祭  ■サークル活動: 有										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 株式会社アトミックモンキー、株式会社ケンユウオフィス、劇団扉座、文化座横沢けいこナレータースクール、松竹芸能株式会社、株式会社81プロデュース、宝映テレビジョン			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に係る令和2年5月1日時点の情報)										
	■就職指導内容 応募書類添削指導、面接指導、身だしなみ含め就職マナー指導など				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>著作権検定</td> <td>③</td> <td>133人</td> <td>125人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	著作権検定	③	133人	125人
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数										
	著作権検定	③	133人		125人										
	■卒業者数 130 人 ■就職希望者数 127 人 ■就職者数 18 人 ■就職率 14.1 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 13.8 %				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)										
■その他 進学者数: 3人 その他: 109人			■自由記述欄												
(令和 元 年度卒業者に係る 令和2年5月1日 時点の情報)															
中途退学の現状	■中途退学者 25 名 平成31年4月1日時点において、在学者 275 名(平成30年4月1日入学者を含む) 令和元年3月31日において、在学者 250 名 ■中途退学の主な理由 病気療養、経済的問題、進路変更等		■中退率 9 %												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・片柳学園入学金免除制度、・若きづくり人奨学金(片柳学園給付型奨学金)、再入学優遇制度、片柳学園貸与型奨学金、留学生特別給付制度、ミュージシャン特待生 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

声優・演劇分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。また声優・演劇分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容・方法等について検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。また、教育課程編成委員会の意見は科内会議で審議されたのち、学校長の許可を経て決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
百田 英生	一般社団法人 デジタルボイスパレット	平成(令和)31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	①
山下弘樹	株式会社 プロダクション・エース	平成(令和)31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	③
西田絵里	株式会社 ケンユウオフィス	平成(令和)31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	③
吉村 智樹	日本工学院専門学校 クリエイターズカレッジ 声優・演劇科 科長	平成(令和)31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	
村田 鉄之	日本工学院専門学校 クリエイターズカレッジ 声優・演劇科 主任	平成(令和)31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	
大塚 勝哉	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 課長	平成(令和)31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年 月 日 16:30～17:30

第2回 令和2年 月 日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

委員会の中では、学校に通学しながら現場を踏めるととても良い経験になるので取り入れてもらいたい。現場がタレントを育てるという観点から現場との結びつきを強くして人材育成をすることを求めている。という意見があり、これを踏まえて声優演技Ⅰおよび声優演技Ⅱにおいて現場で活躍されている講師を派遣してもらうとともに収録現場などに学生が参加できる機会を設けるなどの取り組みを行った。

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学外現場との差異をなくすために現場で活躍されている講師の派遣や柔軟な対応を取っていただける企業の選定を行っている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

声優・俳優の現場で起こるディレクションや要求、求められるものに対し即応するための技術取得や創造性を養ったための授業実施を行っている。

インプロ、エチュードを用いた即応性、創造性さらにはアクティブラーニングを活用したコミュニケーション能力の向上を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
声優演技Ⅰ	声優に求められる演技表現を身体表現も合わせて学びます	株式会社 81プロデュース
声優演技Ⅱ	声優に求められる演技表現を身体表現も合わせて学びます	株式会社 81プロデュース

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名 日本の近代・現代劇へのアプローチ

期間: 令和2年7月20日(月)～8月2日(日) 対象: 全教員

内容: 近代戯曲の様々な側面に探りを入れ、戯曲が持つ面白さ、奥深さを発見していきます。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「AI時代の人材とは」(連携企業等: クリーク・アンド・リバー社)

期間: 令和1年8月30日(金) 対象: 全教員

内容: ビックデータ・AI時代に必要とされる人物像とその育成方法について理解を深め、これからの学生に対する教育法を考察。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名 Salesforceのビジネスリーダーが実践する 変化の時代に生き残る社員を育てるSales Enablement実践のポイント

期間: 2020年9月14日(月) 対象: 全教員

内容: オンラインにおける人材育成のあり方

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名(仮)「規模別によるオンライン授業の設計」(連携企業等: クリーク・アンド・リバー社)

期間: 2020年10月14日(水) 対象: 全教員

内容: コロナ禍におけるオンライン授業の在り方について、様々な視点から学び、これから教育に活かす。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 最高顧問	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	IT企業等委員/卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	地域関連/会計専門委員
工藤 俊一郎	公益財団法人 放送番組センター顧問	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員/卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	クリエイターズ/デザイン企業等委員
西川 恭子	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
須賀 寛光	学校法人上野塾 東京実業高等学校 電気科科长	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) ( )

<https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 2020年9月11日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生としての保護者に対し、必要な情報を提供し十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(11) その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) ( )

<https://www.neec.ac.jp/public/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程声優・演劇科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
								講 義	演 習	実 験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択													
1	○		ビジネススキルⅠ	芸能界を含む、社会において必要な一般常識やマナーを習得し、人間力・コミュニケーション力を高め社会に貢献できる人材の育成を行います。	1・前	15	1	○			○			○	○
2	○		ビジネススキルⅡ	芸能界を含む、社会において必要な一般常識やマナーを習得し、人間力・コミュニケーション力を高め社会に貢献できる人材の育成を行います。	1・後	15	1	○			○			○	○
3		○	演劇概論Ⅰ	演劇史をはじめ、演技を学ぶ上で必要な知識を学びます。	1・前	15	1	○			○		○		
4		○	演劇概論Ⅱ	演劇史をはじめ、演技を学ぶ上で必要な知識を学びます。	1・後	10	0	○			○		○		
5	○		演技研究Ⅰ	映画、テレビ、舞台など、様々な作品に触れながら演技を研究実践します。	1・前	60	4	○			○			○	
6	○		演技研究Ⅱ	映画、テレビ、舞台など、様々な作品に触れながら演技を研究実践します。	1・後	40	2	○			○			○	
7	○		基礎演技Ⅰ	個々の資質を伸ばしながら、呼吸法・発声法・発音訓練、それに伴う身体訓練などを含む演技の基礎を学びます。	1・前	105	3		○		○			○	
8	○		基礎演技Ⅱ	個々の資質を伸ばしながら、呼吸法・発声法・発音訓練、それに伴う身体訓練などを含む演技の基礎を学びます。	1・後	70	2		○		○			○	
9	○		基礎演技Ⅲ	個々の資質を伸ばしながら、呼吸法・発声法・発音訓練、それに伴う身体訓練などを含む演技の基礎を学びます。	1・前	105	3		○		○			○	
10	○		基礎演技Ⅳ	個々の資質を伸ばしながら、呼吸法・発声法・発音訓練、それに伴う身体訓練などを含む演技の基礎を学びます。	1・後	70	2		○		○			○	
11	○		舞踊Ⅰ	日本舞踊を通じて和装の着付けから所作、礼儀作法を学びます。	1・前	60	2		○		○			○	
12	○		舞踊Ⅱ	日本舞踊を通じて和装の着付けから所作、礼儀作法を学びます。	1・後	40	1		○		○			○	





			○ 舞台実習Ⅰ	舞台演技の表現能力の向上を図り、集団で舞台芸術作品を制作するプロセスを実践的に学びます。	2・前	105	3		○	○	○						
			○ 舞台実習Ⅱ	舞台演技の表現能力の向上を図り、集団で舞台芸術作品を制作するプロセスを実践的に学びます。	2・後	70	2		○	○	○						
			○ 舞台実習Ⅲ	舞台演技の表現能力の向上を図り、集団で舞台芸術作品を制作するプロセスを実践的に学びます。	2・前	105	3		○	○	○						
			○ 舞台実習Ⅳ	舞台演技の表現能力の向上を図り、集団で舞台芸術作品を制作するプロセスを実践的に学びます。	2・後	70	2		○	○	○						
			○ アフレコⅠ	アフレコやプレスコ実習を中心に演技と録音スタジオでの技術を学びます。	2・前	105	3		○	○	○						
			○ アフレコⅡ	アフレコやプレスコ実習を中心に演技と録音スタジオでの技術を学びます。	2・後	70	2		○	○	○						
			○ 声優演技Ⅰ	声優に求められる演技表現を身体表現も合わせて学びます。	2・前	105	3		○	○	○	○					
			○ 声優演技Ⅱ	声優に求められる演技表現を身体表現も合わせて学びます。	2・後	70	2		○	○	○	○					
			○ ナレーションⅠ	ナレーションやリーディングなど、声の表現力を学びます。	2・前	60	2		○	○	○						
			○ ナレーションⅡ	ナレーションやリーディングなど、声の表現力を学びます。	2・後	40	1		○	○	○						
			○ アナウンスⅠ	アナウンスを通じて伝えることの技術を学びます。	2・前	60	2		○	○	○						
			○ アナウンスⅡ	アナウンスを通じて伝えることの技術を学びます。	2・後	40	1		○	○	○						
			○ 応用演技Ⅰ	演技者としての表現能力の向上を図るとともに応用力を学びます	2・前	60	2		○	○	○						
			○ 応用演技Ⅱ	演技者としての表現能力の向上を図るとともに応用力を学びます	2・後	40	1		○	○	○						
			○ 舞踊Ⅲ	日本舞踊を通じて品や礼節を身につけます。	2・前	60	2		○	○	○						

			○ 舞踊Ⅳ	日本舞踊を通じて品や礼節を身につけます。	2・後	40	1		○		○			○
			○ ダンスⅤ	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指し、より高度な技術を身につけます。	2・前	60	2		○		○			○
			○ ダンスⅥ	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指し、より高度な技術を身につけます。	2・後	40	1		○		○			○

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	ダンスⅦ	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指し、より高度な技術を身につけます。	2・前	60	2	○			○			○	
		○	ダンスⅧ	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指し、より高度な技術を身につけます。	2・後	40	1	○			○			○	
		○	ヴォーカルⅢ	様々な種のヴォーカルに取り組み、歌の世界観を理解し、歌唱力と表現力を高めることを目標とし、成果を発表します。	2・前	60	2	○			○			○	
		○	ヴォーカルⅣ	様々な種のヴォーカルに取り組み、歌の世界観を理解し、歌唱力と表現力を高めることを目標とし、成果を発表します。	2・後	40	1	○			○			○	
		○	ヴォーカルⅤ	様々な種のヴォーカルに取り組み、歌の世界観を理解し、歌唱力と表現力を高めることを目標とし、成果を発表します。	2・前	60	2	○			○			○	
		○	ヴォーカルⅥ	様々な種のヴォーカルに取り組み、歌の世界観を理解し、歌唱力と表現力を高めることを目標とし、成果を発表します。	2・後	40	1	○			○			○	
		○	ミュージカル実習Ⅰ	ヴォーカルを中心に、演技・ダンスを総合的に取り入れた表現を学びます。	2・前	105	3	○			○			○	
		○	ミュージカル実習Ⅱ	ヴォーカルを中心に、演技・ダンスを総合的に取り入れた表現を学びます。	2・後	70	2	○			○			○	
		○	演劇表現演習Ⅰ	現代演劇やミュージカル、伝統芸能、お笑いなど様々な演劇表現を学びます。	2・前	60	2	○			○			○	
		○	演劇表現演習Ⅱ	現代演劇やミュージカル、伝統芸能、お笑いなど様々な演劇表現を学びます。	2・後	40	1	○			○			○	
		○	企画制作演習Ⅰ	観客や視聴者を意識した芸術作品を企画し制作することを学びます。	2・前	105	3	○			○			○	
		○	企画制作演習Ⅱ	観客や視聴者を意識した芸術作品を企画し制作することを学びます。	2・後	70	2	○			○			○	

13	○		シナリオⅠ	シナリオ・戯曲・台本を、声を出して読む力を学びます。	2・前	60	2		○		○			○
14	○		シナリオⅡ	シナリオ・戯曲・台本を、声を出して読む力を学びます。	2・後	40	1		○		○			○
15	○		卒業制作	卒業制作作品に出演します。（他学科制作のアニメ・CG・ゲーム・映像・イベントほかを含む）	2・後	120	4		○		○			○
16		○	インターンシップA	映画、テレビ、舞台、イベント等の学外の出演を通して実践的な知識や技術、仕事に対する姿勢を学びます。	2・前後	240	8		○		○			○
17		○	インターンシップB	映画、テレビ、舞台、イベント等の学外の出演を通して実践的な知識や技術、仕事に対する姿勢を学びます。	2・前後	120	4		○		○			○
18		○	インターンシップC	映画、テレビ、舞台、イベント等の学外の出演を通して実践的な知識や技術、仕事に対する姿勢を学びます。	2・前後	60	2		○		○			○
19	合計				63科目	3945単位時間(127単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。